

No.22

2005. 2. 21

# 地球の木

♥ 地球上のすべての人たちと共に生きたい

■発行 特定非営利活動法人  
地球の木 理事会  
■発行責任 丸谷士都子  
■編集 広報部  
■事務局 〒231-0032  
横浜市中区不老町1-3-3  
フェニックス内2F  
TEL 045-228-1575  
FAX 045-228-1578  
E-Mail:chikyunoki@e-tree.jp  
<http://homepage1.nifty.com/EarthTree>

## CONTENTS

- 災害に思う
- スマトラ沖地震被災者への復興支援募金のお願い
- フィリピン・ネグロス島現地調査報告
- ネパール・スタディツアーワーク2004
- 支援地から
- ブランチから
- 地球の木ユースクラブ始動中！
- 活動日誌
- INFORMATION



## 災害に思う

次々に起ころる戦争が人々の命を奪うばかりではなく、環境も破壊してしまうものなのだと、悲しく心が痛くなっていたところに、昨年は火山の噴火、地震、津波と、想像を絶する大きな自然災害が次

から次へと続きました。被災した人たちの絶望感を思うと心の痛みが増すばかりです。

スマトラ沖地震の際の大きな津波被害の後、いち早く現地に入り支援活動を始めたのがNGOだと報道で知りました。政治がらみでなく、ほんとうに支援の必要なところに手を差しのべる支援をするべきで、即、行動できるNGOの存在を心強く思います。

被災直後は世界中からお金と人が現地に入り緊急支援が始まりましたが、これからは生活の基盤を支える支援が必要になると思います。私たちは地球の木らしく、現地の人たちに必要な支援を継続していくかと思っています。“心をかたちにする”ことの重要性を改めて感じています。

ブランチ連絡会担当理事 石川 美恵子

新潟中越地震で被災した人の話を聞きました。地震直後停電になり、余震に怯えていた時に、ヘリコプターが上空を旋回してサーチライトの光が届いた時は、「本当に嬉しかった」というのです。孤立していると思っていたところに、光があてられて「見捨てられていない」ことを実感し、生きる勇気が湧いてきた、というのです。

阪神淡路大震災の折、8割の被災者は隣人に助けられると知りました。人は衣食住が足りても人との関わりがなければ生きる力が湧いてこないようです。フィリピン・ネグロス島の村を訪問して、村人たちと交流したとき、助け合って生きることの大切さを実感しました。ふりかえって、日本の都会の人間関係の希薄さを考えると、背筋が寒くなる思いです。これを機会に、地域で顔の見える関係作りにますます真剣に取り組みたいと思います。

「見守っているからね」とサインを出し続けて子育てし、子どもたちは心のどこかで「見守ってくれている」と安心して、本当にやりたいことを見つけて飛びたっていく。支援と子育てに共通のものを見出した思いです。

## スマトラ沖地震被災者への復興支援募金のお願い

昨年12月に起きたスマトラ沖地震はインド洋周辺の国々に未曾有の被害をもたらしました。被災者の方々には心よりお見舞い申し上げます。支援の輪は、今、世界中に広がっていますが、「どこに募金をしたら本当に支援を必要としている人々に届くだろうか」と迷っている方も多くいます。

地球の木では、自然災害の場合も「顔の見える支援」を大切にしています。被災地で活動するNGOの情報を収集し、理事会で話し合った結果、スリランカを支援対象地域とし、生活の復興も視野に入れた自立への支援をすることになりました。皆さまのご寄付をお預か

りし、地球の木とネットワークを持つ現地NGOを通じて被災者の方々の自立支援に当てると共に、現地の状況をお伝えしていきます。また、募金活動と共に「スマトラ沖地震被災者への復興支援バザー」を開催し、皆さまの心を被災地に届けます。ご協力をよろしくお願いいたします。

振込みは郵便振替をご利用ください。

口座番号：00260-5-14129

加入者名：（特活）地球の木

「スマトラ募金」とお書きください。



## フィリピン・ネグロス島現地調査報告

昨年12月1日から6日間にわたって、5人のメンバーがネグロス島を訪りました。本年度から始まった「レツ・ゴー！ファミリープロジェクト」のモデル農家を訪れ、野菜作りの見学、農家のお母さんたちとの交流、有機野菜購入者たちへのインタビューや伝統的な砂糖作りの見学など盛りだくさんで、収穫の多い調査でした。

### 元気なネグロスを実感

フィリピンチーム 廣瀬 康代

#### 砂糖きびを積んだトラック

初めて砂糖きびの刈り入れの時期に、ネグロスを訪れました。こんなにたくさんのトラックがどこにあったのかと思うほど、砂糖きびを一杯積んで行き来しています。エスペランサ農園の近くの製糖工場では、たくさんのトラックが駐車場に入りきらず道路端に長い列を作っています。まだまだ砂糖きびプランテーションの島なのだと感じました。

#### モデル農家を訪問

地球の木は、1992年飢えに苦しむネグロス島の人々の支援を始めました。その後砂糖労働者が農業技術を習得する場となっているツプラン農場の支援から、本年度は、家族単位で農業技術を身につけ、有機野菜作りで収入を得て自立達成を目指す「レツ・ゴー！ファミリープロジェクト」をスタートさせました。家族農家への具体的な支援は種・苗その他農業資材の貸付ですが、それとともに地球の木からの支援金があてられている農業指導員（現在3人）の大切な働きがあります。

今回は、モデル農家である、メルセデス農園のジョエル＆ラニ夫婦、ビノブハン農園のビセンテ＆エルサ夫婦を訪ね、家族でどの位の量の野菜を作っているのか、収入はどれくらいか、生活のことなどもインタビューすることができました。

#### 互いに感謝

その日の晩はローデス村のラーニングセンターに泊りました。PAP21(\*1)のスタッフでスタディツアーやラーニングセンター担当のラリーさんのワークショップをしました。またモデル農家のお母さんたちと一緒に食事を作り、楽しい交流ができました。ネグロスのお母さんたちは家族の幸せを願い、子どもたちに教育を受けさせたいと望んでいる、それは日本の私たちと同じです。ただ違う事は命をも懸けた戦い（土地獲得のための地主との戦い）もしているという事です。しかし元気一杯に私たちに接してくれます。エスペランサの農民組合の委員長リトさんの奥さんは、私たちの支援に感謝を述べてくれましたが、私たちこそ支援活動を通して元気をもらっているということ、そして日本の中でもいろいろな人と繋がることができたことを伝えました。



#### 野菜についてインタビュー

今回訪問の目的の一つは、PAP21の代表ベン神父の教会の前で行われている朝市の見学と、そこに買い物に来ているお母さんたちと話をすることです。マジカルバナナ(\*2)のユニットの一つ、「買い物ランク」をしました。結果は、彼女たちも安全な食べ物を意識しているし、国内産の物を大切にしていかなくてはいけないことも解っているが、有機野菜への意識は低く、まだその価値を認めてもらうのは難しいようです。朝市で買い物している人にインタビューをすると、野菜を買うためには町の中心の市場かスーパーまでジプニー（ジープの乗り合いバス）で行かなくてはいけない状況であることがわかりました。この朝市のような地道なプログラムで確実に購買力も高まっています。マーケティングに関しては、問題もありますが、今後チャレンジが期待されるプログラムだと思いました。



ベン神父の教会の前で朝市の買い物をしている人にインタビュー

#### 一緒に学ぶ

今回の調査で、とても元気なネグロスを痛いほど感じました。一昨年エスペランサ農園でジョニーさんが私兵に撃たれた時はもうこのままだうにもならないのかと、暗い気持ちになりましたが、決して私たちのネグロスの友達は負けません。しかし、現在エスペランサの農地解放問題は90%順調に進んでいるものの、一部の人たちが大きな富を得るグローバル化はフィリピンでもどんどん進んでいます。ネグロスの支援を通じて私たちが学ばなくてはいけない事がたくさんあることを感じたネグロス訪問でした。

\* 1 日本ネグロスキャンペーン委員会と協力してネグロスで活躍している現地NGO

## フィリピンの歴史

- 1521年 マゼランのフィリピン到着
- 1571年 スペインの統治開始
- 1856年 イギリス商人がネグロス島に砂糖きびを持ち込む
- 1898年 米西パリ講和条約調印によりアメリカ統治開始
- 1935年 独立準備政府（コモンウェルス）発足
- 1942年 日本軍制開始
- 1946年 7月4日フィリピン共和国独立
- 1965年 マルコス大統領就任

- 1985年 世界的な砂糖価格の大暴落
- 1986年 アキノ大統領就任
- 1987年 農地改革要求で農民と軍が衝突
- 1988年 農地改革法制定
- 1992年 ラモス大統領就任
- 1998年 エストラダ大統領就任
- 1999年 アロヨ大統領就任

★the Philippines ★ the Philippines

### がんばれ家族農業

稻葉 博子

今回のツアーで感心した事は、PAP21が、農業指導だけでなく、生活全てに関わる考え方まで丁寧なセミナーを開いている事だった。それは、ジエンダー、家計管理、家族でおこなえる健康管理のための指圧や薬草栽培そして生産物のマーケティングにいたる。

元さとうきび労働者たちが長い土地獲得の戦いの後、自分たちの土地を所有し、その土地を利用してものを生産していくことが、どれほど自己責任を伴った大変な事なのかは想像を絶する。

交流した農家の女性から「さとうきび労働者として働いていた時は、暇な時にはテスミス（噂話）、トランプやギャンブルをしていましたが、家族農業をするようになってからは草むしりや水遣りをするようになった」という話を聞いた。それは「単に与えられた労働」から「自ら進んでする労働」となり、大変だが喜びに繋がる事でもある。日本でも世界の中でも自営の小農家はどんどん姿を消していく中で、このネグロスでも家族農業で生き残ることはとても難しい事だと思ふ。PAP21にもモデル農家の人たちにも頑張ってほしい。



ビノブハン農園のビセンテさんの畠で奥さんのエルサさんにインタビュー

困難はあるにしても可能性をたくさん感じたネグロスだった。基本は自給を中心にして多種類の野菜を栽培する事により、生活が豊かになり現金収入に結びつく事。そしてその目的達成ための地道な毎日の働き。今回、ネグロスの消費者と、インタビューなどを通して話が出来た事は、同じ立場の自分としては大きな収穫だった。ベン神父の言うようにPAP21と支援先は、単に「支援する、される」だけではなく次のさらなるステップへ登り始めたのかもしれない。彼らの成功がこれからのネグロス農家の新しい第一歩となるように祈っている。

ある農家でたっぷり砂糖の入ったインスタントコーヒーに、しっかり実がしまったスイートコーンと素朴なキャッサバのおもてなしをいただき、心が温かくなつたが、このネグロスの大地の上で毎日行われている日常の営みを丁寧に暮らしている女性たちに、たくましさと優しさを感じたひと時であった。



教会前の朝市

### 育苗用ポットはバナナの葉！ 国分 純子

ツプラン農場は幹線道路からそれで、でこぼこ道をすこし入った所にあった。

米やなす・にがうり・白うり・空芯菜・とうもろこし・さつまいも・さとうきび・すいかなど夏野菜の見本園のようだ。育苗用のポットはバナナの葉っぱをぐるりと巻いて作ってあるのが印象的だった。子豚は希望する農家へ支給していると聞いた。育てた豚は、PAP21が買い取る。同じような考え方で野菜の種も支給しているということだ。長い時代さとうきび労働者であつたため、何も持てるものがいる人への素晴らしい支援のあり方だと思った。そこでもうひとつ感じ入ったのは水利用について。ラムポンプ（水撃ポンプ）という、エネルギーを使わずに川から水を揚げる方法と、屋根の雨水を集めめた大きな水槽があった。

ローデス村での交流では、集まってくれた女性たちにチャーミングでエネルギーの魅力を感じるところが多かった。全日程を通してお世話をいたいたラリーさんの、体をフルに動かすワークショップでは無心になり、「感じたことから考えること、そしてよりよく生活してゆくことに繋げる」と教わった。皆で用意したご馳走は、大地の氣とお母さんたちのパワーがしっかりと詰まっていたので、よりおいしかったのでしょう。



PAP21のスタッフのラリーさん、トトさんと一緒にバコロド空港で



## 気づきと感動の旅

ツアーのメンバーたち

ネパール・スタディツアー2004は、過去3回のツアー同様、心に残る旅となりました。湘南六会でモデル地域づくりにチャレンジする「ディスペースひまわり」のスタッフ5名と高校の先生1名、コーディネーターの丸谷と乳井、計8名の珍道中。コンセプトは「あなたが創るスタディツアー」。

メンバーたちの主体的な参加のお陰で、学びあうことの多い、密度の濃いツアーとなりました。

### ★★★ 今回のツアーの目的

- ①地球の木が支援しているイマドール村の女性グループ、ユースクラブ、NGOの人々との交流
- ②カマルさんのワークショップでSOARSと共にNGOの役割を学ぶ。イマドール村の可能性を見つける
- ③SOARSのスタッフ強化
- ④観光（ヒマラヤの夜明けを見る。古都を訪ねる）
- ⑤プロジェクトの進捗状況の確認と討議



霜柱を踏みながら朝の散歩 生活改善のアイデアが次々とた

### ★★★ イマドール村は元気一杯

人材育成センターに女性グループ、ユースクラブの代表たち約30名が集まり、2年間の活動の成果を発表。盛んに意見を述べ合いました。山羊・羊・鶏などの飼育をしているグループ、野菜作りグループ、石けん、手工芸品作りをしているグループなど、資金づくりも進んでいま

## ネパール・スタディツアー2004

ネパールチーム代表 乳井 京子

### ★日 程 ★

- |  |  |
|--|--|
| 12/23(木) 成田空港よりタイ国際航空でバンコクへ<br>バンコク泊 タイ・レストランで懇親会  | 12/26(日) 仏教寺院を訪問<br>カトマンドゥでショッピング      |
| 12/24(金) カトマンドゥ空港からナガルコットへ<br>ヒマラヤのサンセットを見る<br>SOARSオリエンテーション 欽迎会                            | カマルさん宅にて夕食をご馳走になる                      |
| 12/25(土) ヒマラヤのご来光を見る 古都バクターブ<br>ル観光 イマドール村周辺の女性グループ、<br>ユースクラブのメンバーと交流会 互いの<br>活動を紹介しあい、質疑応答 | 12/27(月) カマルさんワークショップ                  |
|  | 12/28(火) カマルさんワークショップ                  |
|  | フェアトレードショップ、NGO訪問                      |
|  | 12/29(水) SOARSと2005年度プロジェクト協議<br>バンコクへ |
|  | 12/30(木) 成田空港着                         |

スタッフに聞くと人材育成センターでのトレーニングの成果だと目を細めて言いました。以前は、冬場に青菜を植える人はいなかったそうですが、多くの家庭菜園で青菜が育っていました。野菜をたくさん作って出荷するようになりました。トイレのある家が増え、衛生面も大いに向上したそうです。

交流会に集った女性たちは、とてもよくしゃべり、カーストの壁を感じられませんでした。「低カーストの人はカーストの高い人の家に入れないという社会の中で、人材育成センターは誰でも入ってこられるお寺のような存在」というシユレスタさんの言葉もあり、センターは人々の輪を広げていました。

地球の木が支援している青少年グループの成長は、5月の調査でも眼を見張るものがありました。シユレスタさんの言葉の端々から、青少年グループを人材育成センターの次世代の担い手と考えていることがうかがわれました。志の高い若者たちが多数おり、学んだことを着々と行動に移しています。

### ★★★ 極西部では

マオイストと政府軍の攻防が続く中、社会活動が難しくなっているカイラリ郡で、識字教室は今年度分を順調に終了し、次の識字教室の準備も進められています。この地域でNGO活動を継続しているのはSOARSだけで、他のNGOはマオイストの妨害を恐れ、みな撤退したそうです。SOARSの運営に透明性があること、最も貧しい人々のための活動であること、マオイストからお金を要求されても渡さないことなどがプロジェクトの継続を可能にしている理由と思われます。「今、たとえ100万ルピーを積んでも、カイラリ郡で識字教室を始めることはできない」と言ったシユレスタさんの言葉が印象的でした。

\* 日本円で160万円。2万円あれば識字教室が6ヶ月できるので、160万円は大金



リソースマップで  
村の資源を発表しあう  
「私たちの村にはこんなに  
いい所があったんだ！」



沖縄の「サンシン」で子どもたちと交流

### ★★★ 地球の木 ネパール・スタディツアー2004に参加して

堀 信幸 (高校教諭)

### ★★★ 支援について

今まで支援といえば、寄付というかたちでただお金を送れば良い、物を送れば良いと思って様々な団体に寄付をしていました。

今回のツアーで地球の木とSOARSの行っている支援が少しわかったような気がしました。お金や物だけでなく人を育てる事に重点をあき、将来の自立支援を行っている事がわかりました。

今回は、講師にカマル・フヤル氏を迎え、現地NGOスタッフとワークショップを行いました。そこでは、ネパール社会における権力抗争の縮図、支援の難しさ、様々なNGOの実態、人材育成などについて学びました。この様な事を実際に支援地で展開するなど思いもよらぬ事でした。

私が知っているネパールと言えば、貧しく、粗末な家に住み、毎日朝から晩まで働くものだと思っていたましたが、それが今回違うことがわかりました。人々はみな明るく、素直で、生き生きとして活動的で、中でも女性グループ・青少年グループとの交流では、みな活発に意見を述べ想像していたものとは違い驚きました。これも今迄の支援が形となって現れたものと思います。相手の立場に立った地道な活動がいかに大切かがわかった様な気がしました。

# 支援地から

ラオス

## JVCは村人の苦悩にどこまで答えられるのか



ダムに沈む予定のナカイヌア村の子ども

つて、森林産物の採取や農業で生計を営んでいる人たちが、土地や森林を失う事例があとを絶たない。土地や森林を失うことは、彼らの生活基盤そのものを失うことになりかねない。

そのため、JVCラオスは開発事業を行う際に、村人の土地や森林の権利を守っていくよう行政側に強く働きかけてきた。10年近くに及ぶ働きかけを通じて、少しほとんどは村の土地や森林を守ることに注意を払うことも意識されるようになったと考えていた。

ところがそんな楽観的な考えを吹き飛ばす事件があきた。2004年9月、ラオスと中国の合資会社がセメント工場建設のために、ラオ村と隣村の土地を強引に買収したという一報が、JVCに届いたのである。ラオ村にやってきた行政官は、「買収に応じなければ逮捕だ!」「村が反対して工場建設ができなければ、村が企業に対して保証金を払わなければならない」などとあからさまな脅迫で、土地買収の契約書へのサインを強要したという。土地を失った村人の中には、何年もかけて育ててきた果樹園を失った者もいる。わずかな保証金を手にしたもの、新たに土地を購入するには程遠く、いまも途方に暮れている村人もいる。村長は「政府の決定にたてつくなんて、やっぱり無理だよ」と、あきらめと徒労感の入り混じった表情でぼつりと、つぶやいた。

『経済開発』という巨人に立ち向かう村人を夢見るだけのドン=キホーテに終わりたくない。どうやって、村人とともに次の策を仕掛けていくのか、いまも苦悩と模索が続いている。

(JVCラオス事務所 名村 隆行)

カンボジア

## それぞれの未来に向かって

現在チャイルドケアセンターで生活している子どもたちは、6カ所に別れて暮らしています。バッタンバン農場のセンターに9名、シェムリアップに7名、バッタンバンのお寺に3名、タケオのお寺に1名、るしなバッタンバン・オフィスに居候をしている男子高校生2名が市内の高校に通っています。

カンボジアの新年度はお盆明け（カンボジアでは9~10月）から始まり、みんなそれぞれ元気に学校に通っています。僧侶になつた4人は早朝4時より起床し、お経を暗唱し、パーリ語とサンスクリット語の勉強をしています。

当初は、子どもたちの最終学歴は中学卒業までと考えていましたが、カンボジアでの学歴尊重傾向はこの10年で予想できなかつたほど高まっており、両親がいないというハンディを背負つたセンターの子どもたちの将来を考えると、高校卒業程度の高学歴（カンボジア農村では数少ない！）を得ていたほうがよいとの考え方から方針を変えました。しかし、実際に街中の高校に通つてみると、周囲には比較的裕福な家庭の子どもたちが通つてあり、お小遣いの額も違い、行つたら行つたで苦労もあるようです。全般的にまじめに学校に通うよい子たちですが、バッタンバン農場にいる子の中には、学校の授業内容がまったく理解できない子もいます。現在小学3年生ですがクメール語の読み書きが本当にできず苦労しています。本人は豚の世話が好きで農作業も一所懸命する子なので、農業の経験を積んで土地持ちの立派な農家になってくれれば、と願っています。

(るしな代表 松本 清嗣)



チャイルドケアセンターからの年賀状



## ブランチから

### “自分たちの活動を知る” ブランチで連続学習会

理事会の意思決定のスピード化とブランチでの活動の活発化を目的に、地球の木の組織が変わって2年目も終わろうとしています。西湘ブランチでは、昨年の10月から今年2月にかけて、地球の木が支援している4つのプロジェクトについて、ひらつか市民活動センターで報告会を開催しています。いろいろな報告会やワークショップは横浜で開催されることが多く、なかなか西湘からでは参加しにくいのが現状です。また、今まで西湘の活動は単発のイベントに参加するが多く、じっくり自分たちが支援して

いるプロジェクトを知る機会を作っていました。そこで今年度は、まず支援地の様子を地域のみなさんに知ってもらおうと、報告会を地元で開催することにしました。

1回目のフィリピン4名、2回目のカンボジア6名、3回目のネパール3名と、参加者が少なかつたことは残念ですが、遠く小田原からの参加者もありとても励まされました。次年度は広報の仕方、日程、場所、内容などを考え、改めて計画していきたいと思っています。アイデアがありましたらご連絡下さい。

(西湘ブランチ 坂下 まさみ)

### 地球の木・ユースクラブ始動中！

壮年の木の下に、ポツンと落ちた種が、みると芽を出したかのようです。昨年来元気に活動を開始した地球の木・ユースクラブ。先頭に立つ若きリーダーはどんな人でしょう？尋ねてみました。

始めまして、吉澤詩苑（しあん）と申します。私は高校時代に、カナダに一年間留学。英語を使ってバリバリ働きたいと大学は経済学部に入学しましたが、やはり根拠のない選択だったのか、半年後には大学に通う意味・目的が見出せず悩みます。そんな時インドに行く機会を得、一ヶ月滞在。インドに惚れ込んだ私はその後低コストの子どものための教育系NGOで四ヶ月働き、以来、国際協力に関わりたいという思いが強くなります。

帰国後、地域でもNGO活動に参加したいと探し回っている時に、「国際協力まつり」でもらったパンフレットに小さく載っていた「地球の木」を発見。



第3回のミーティングにて  
中央が代表の詩苑さん

早速ミーティングに出てみると、なんと私の母親ぐらいの方たちがフィリピンがどうの、砂糖貿易がどうのと、熱く討論しているではないですか！多大なエネルギーをもらった私は“ここで活動したい”と強く思いました。地球の木は普段昼間活動しています。学生や社会人はその活動に賛同しても時間的に参加できません。そこでユースクラブ（夜間、週末活動の部）の立ち上げに至ったというわけです。

これまでに3回のミーティングをしました（活動日誌参照）。参加者は、学生、社会人、主婦、NGO職員などさまざま、世界のことや援助のあり方、開発教育などについて、とても考えさせられる話し合いをしました。人生のあり方にまで話しがおよぶこともあります。みなさんも応援して下さいね。また、どなたでも、一度ミーティングに遊びに来てみて下さい。私がそうだったように探している何かが見つかるかもしれません。

(地球の木・ユースクラブ代表 吉澤 詩苑)

### 活動日誌（12月～2月抜粋）

12月1～6日	フィリピン・ネグロス島現地調査
11日	「マジカルバナナ」出前講座 (茨城国際交流協会)
13日	第4回 マジカルシュガー学習会
19日	第1回 地球の木・ユースクラブミーティング
20日	地球の木忘年会（まあじょらむ）
23日～30日	ネパールスタディツアーネバーハウス
27日	事務所大掃除&お疲れ様会
2005年	
1月8日・9日	全国教材持ちよりセミナーで「マジカルバナナ」紹介
11日	第5回 マジカルシュガー学習会
12日	第2回 地球の木・ユースクラブミーティング
15日	楽しくセミナー 「民衆の民衆による民衆のための交易」

22～29日	ラオス現地調査
23日	フィリピン・ネグロス島調査報告会
23日	つるみ国際交流まつり（鶴見国際会館）
25日	第3回 地球の木・ユースクラブミーティング
29日	ネパールスタディツアーレッスン
30日	第3回 西湘連続学習会
	「ネパールプロジェクト」
2月 3日	レッツ・ゴー！ファミリープロジェクト評議会 (フィリピンチーム)
7日	第6回 マジカルシュガー学習会
12日	地球のステージ「やまとから平和の風を」
19・20日	第3回 ネットワークNGO全国会議に参加
26日	第4回 西湘連続学習会 「ラオスプロジェクト」

# INFORMATION

## アジアンフェア at 旭センター

日 時：3月15日（火）11:00～13:00  
場 所：横浜みなみ生活クラブ生協「旭センター」  
旭センターをお借りして  
地球の木の活動紹介、支援  
地グッズ、ケーキ、コーヒー  
などの販売を行います。  
生活クラブ会員のみなさん、  
お近くの皆さん、ぜひお立  
ち寄りください！



## ラオス調査報告会

### ～森の民はどこへ行くのか～

地球の木ラオス調査チームが見てきたラオスの  
村人や、ラオスの現状を通して、開発とは何か、  
豊かさとは何かを考えます。

日 時：3月19日(土) 13:30～15:30  
場 所：平沼記念レストハウス 第3号会議室  
(JR関内駅下車、文化体育館横)  
参加費：500円  
参加申込：地球の木  
\*新入荷ラオスグッズ販売あります。

## スマトラ沖地震被災者支援バザー 開催およびご協力のお願い

日 時：3月30日(水) 11:00～16:00  
場 所：地球の木事務所  
手作りのお菓子、手芸品などのご提供、  
お買い上げにご協力ください。  
詳しくはチラシをごらん下さい。

## 市民活動フェア2005

日 時：4月16日（土）10:00～16:00  
場 所：かながわ県民サポートセンター  
地球の木は「『国際協力』ってなんだろう？ 私たちにできること」と題して活  
動紹介展示を行います。その他韓国のチ  
ヂミ販売、アジアのグッズ販売も行います。

## 眠っている切手ありませんか

昔集めて、スクラップ帳で眠ったままの切手、  
62円切手のように以前の半端な金額の切手、使い  
にくいからと引き出しの奥で眠った  
ままになってしまいませんか？  
そんな切手がありましたら、  
ぜひご寄付ください。



## 総会のお知らせ

日 時：5月 22 日（日）13:00～17:00  
場 所：オルタナティブ生活館 2F オルタリアン  
(新横浜下車徒歩 7 分)

多くの方のご出席をお待ちしております。  
詳細は同封のちらしをご覧ください

## 地球の木・ユースクラブ会員募集中

一緒に学習したり、イベントを企画しませんか。  
お申し込みは事務局まで (P7に関連記事があります)

## 募金・寄付ありがとうございました

募 金 (2004年12月1日～2005年1月25日現在)  
総 額 347,670円

(カンボジア:88,170円/フィリピン:67,500円/ラオス:60,000円  
ネパール(デブラン募金):109,000円/その他:23,000円)

牧島佐代子 開澤瑞枝 鈴木登志子 若林かをる  
星恵美子 木村節子 大河原隆子 手塚弘子  
高橋由美子 向井しづ 斎藤敏 末吉悦子  
本間まり子 柳田恵子 豊田由紀子 丸谷士都子  
中嶋洋子 森本佳子 田中いく子 草光紀子  
下室一枝 大島小百合 一色節子 木内京子  
柏柳妙 川上博美 杉本恵美子 庄司えり子  
山本富美子 浅間桃子 柴田晶江 延吉鏡子  
後藤淳子 村本文美 三須宏子 山下むつ子  
植山節子 前島友子 山口雅子 沼田由美子  
大野優子 伊藤康子 三谷裕美子 守井百合子  
高光利恵 朴清美 中里ゆかり 小野寺玉江  
清水公子 細谷洋子 上野ひろみ 館岡豊照  
浅利寛子 堀川和美 丹澤厚子 鈴木麻喜子  
藤本直美 鈴木修子 脇本公子 久保田美代子

寄 付 (2004年11月9日～2005年1月25日現在)  
総 額 78,262円

戸川雅子 泉谷・大根 筒井由紀子 乳井京子  
加藤喜久子 藤川浩 高島靖弘 中野真理子  
(敬称略)

SCHOLASTIC JAPANより絵本を寄贈いただきました。

## カレンダー報告

### 今年度もありがとうございました

「祈り」をテーマとした2005年版地球の木カレンダーの販売にたくさんの方々のご協力をいただきありがとうございました。

販売部数は1,304部、収益は54万円でした。

必要経費を差し引き、地球の木の各支援地に送  
られます。

★ボランティア募集！発送作業、イベント手伝いなど  
★地球の木のプロジェクトはあなたの会費で支えられています